

中国による南モンゴル侵略

知られていない南モンゴル近現代史

講師 オルホノ・トド・ダイチン



【地域データ】

内モンゴル自治区（南モンゴル）

自治区への編入時期：1947年

人口：2384万人（漢族79%、モンゴル族17%、満州族等4%）



日心会 第三回中部ブロック講演会

南モンゴルの基礎知識

- ・気候・・・長く寒い冬と短い夏。雨量も少なく年間300ミリに達しない。面積は日本の2倍。牧畜が主。漢民族(2千万)流入でモンゴル人は20%以下。
- ・耕地に適するのは1パーセント以下。大部分は半砂漠を含む牧草地。地下資源が豊富で石炭・希土類の産出豊富
- ・モンゴル人と漢民族の共通点は一切ない。
- ・仏教の一派ラマ教(チベット仏教の俗称)が浸透していたが文化大革命で徹底破壊・弾圧され僧侶は虐殺された



破壊されたまま放置されている貝子廟
崇善寺（大廟）本堂シリント（錫林浩特）市

オルホノド・ダイチンさんの紹介



- ✕ 南モンゴル出身のオルホノド・ダイチンさん(1966年生)東ウジユムチン旗で高等学校教師をした後、大阪大学大学院に留学し、2008年3月に卒業。ダイチンさんは博士号を取得して中国に帰れば大学で教鞭をとることも可能でしたが、日本に留学し、自由と民主主義を肌で感じ、自分の受けた高等教育を中国政府に苦しめられているモンゴル人の自由と人権のためにささげる決意をされました。そして大阪大学在学中に、モンゴル人の自由・民主・全権独立を主旨とする**モンゴル自由連盟**の結成に積極的に関与し、現在は**党幹事長**を務めています。
そのためダイチンさんが中国に強制送還された場合、国家分裂扇動罪等で投獄され、命に関わる処遇を受けることが強く懸念されます。ダイチンさんは現在、妻の張曉紅さん、息子のデリヘー君と共に日本国に政治難民としての認定を求めています。(奥様は漢化政策が進む東モンゴルで生まれたため漢族式の名前ですが純粋のモンゴル人です。)

しかし日本政府は
非常に冷淡です。中国国籍のダイチンさんの
難民認定は日本政府の中国政府への外交的配慮から
拒否されています。



モンゴルの歴史・・・モンゴル大帝国時代

・13世紀チンギスハーンがモンゴル民族を統一し朝鮮(高麗)からハンガリーに至る大帝国を築きハーンの子孫に領土を分封。その王族たちが支配する連合国家の構造をなした。5代クビライが南宋を滅ぼし元王朝を建国し領土は最大となる。しかし14世紀、大ハーンをめぐる内部抗争で分裂、明 朱元璋による紅巾の乱で故土に撤退、復興するも東(ハルハ)西(オイラート)

に分かれ
抗争。



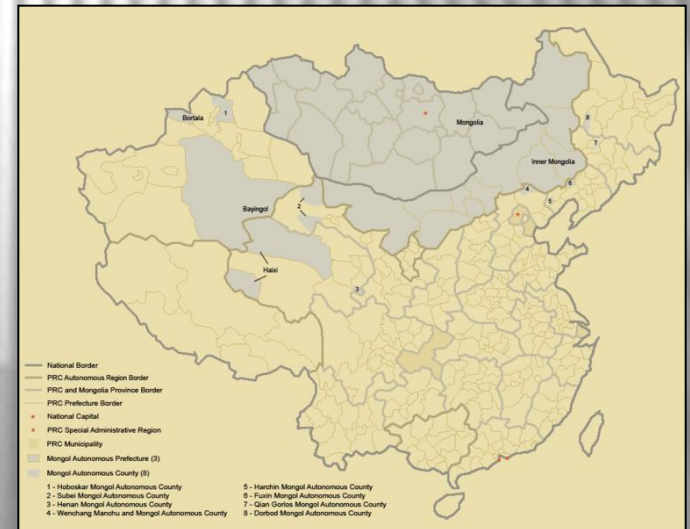
清朝時代のモンゴル

- モンゴルは、西部のオイラトモンゴル（現在のカザフスタン、ウイグル辺り）、ハルハモンゴル（57旗 現在の、モンゴル国）、モンゴル49旗（現在の内モンゴル自治区）のとなり権力闘争が起きる。
- 南モンゴルは、満州族（女真族）と共に「明」を倒し、中国は満州族が支配する「清」となる。
- モンゴルはチベットや新疆とともに藩部と呼ばれ、中央政府は内政に干渉せず、

伝統的な地元の王が統治していた。

しかし南モンゴルは中国本土から漢人の流入が増え、人口で漢人が多数派になる。

旗(ホシヨウ)とは行政単位



モンゴルの独立宣言



- 1911年辛亥革命で清が衰退し、外モンゴル諸王侯シエプツンダバ8世がモンゴルのボグド・ハーン(聖皇帝)として即位、独立を宣言し独立戦争を開始。(ウルカ政府) 清朝・袁世凱軍を追い出し、チベットと相合承認条約を締結した。しかしロシアは外モンゴル自治を認めたが南モンゴルは中華民国の支配下とした為、統一と独立は挫折。(1915キャフタ条約)
- ロシア革命以後、外モンゴルは人民党を結成しソ連に庇護を求め中華支配に対抗。外モンゴルはモンゴル人民共和国となりソ連の衛星国として独立(1924)
- チョイバルサンが首相。スターリンと並ぶ独裁政治を行い、政敵は粛清された。ソ連の影響大



南モンゴル自治政府を支援した日本

- ✕ 南モンゴルでは、満州に進出していた関東軍の援助で、徳王(デムチュクドンロブ)が(1937年)支那事変の勃発後、昭和天皇に拝謁し、蒙古の独立建国を訴え、昭和14年(1939年)に蒙古連合自治政府が成立、昭和16年(1941年)に蒙古自治邦に改名。教育を受けた独立の士が多く輩出。しかし日本敗戦で解散され、弾圧。中国は内蒙古独立運動は日帝の扇動とされた



デムチュクドンロブ (左)
、李守信 (華人) 及び日本
軍軍人



徳王



中国共産党による策謀

✕戦後、国共内戦中、中国共産党モンゴル族のウランフ（烏蘭夫）が、1947年に内モンゴル自治区の成立を宣言し主席となる。内モンゴル自治区の起源となる。徳王は内モンゴルを追われ、外モンゴル(モンゴル人民共和国)へ逃亡したが中共に送還、逮捕され病死。当初、中共は自治を約束したが実質は人民解放軍を進駐させ、自治区の政治は漢民族で占められた。

中国共産党は高度自治という甘い言葉でだまし討ちした。



ウランフ 中国共産党員



自治区成立式

中国共産党によるモンゴル人大虐殺

- × (1966年)に文化大革命が勃発すると自治運動はソ連と通じた民族分裂主義者のレッテルを貼り、南モンゴル人への拷問・殺戮が始まる。(中ソ対立の時代)
- × 150万人の南モンゴル人の内、100万人が逮捕され、死傷者は数十万人と言われる。残虐行為は想像を絶するもので、女子共に吊るし上げて拷問したり、舌に針を通したり、素足で火の上を躍らせたり、強姦し、陰部を串刺したりペンチで歯を抜いた。
- × 人民解放軍の劉小隊長の伝記より
「モンゴル人たちが全員死んでも問題ない。わが国の南方にはたくさん人間がいる。モンゴル人たちの生皮を剥ごう」



現在、南モンゴルのモンゴル人人口比率は2割以下になり、中国による民族抹殺、人口侵略が完成しつつある

現在も続く南モンゴルへの人口侵略

・文化大革命以来、南モンゴルに中国人が移住し「農業技術指導」「辺境を援助する」などの名目で入り人口を増やしてモンゴル人の人口比率は2割以下。南モンゴルは豊富な地下資源で最も経済発展している地域で、GDP成長率は8年連続1位、09年のGDPも前年比で17%伸びた、レアアースの9割が内モンゴルで採れる。その利益はすべて中国人。放牧などで暮らしていたモンゴル人は、資源採掘と工業乱開発による環境汚染のために、土地から追い出され、劣悪な環境の下、**強制移住**させられている



毒水で死んだ羊



移住先の職業はない
為、貧困にあえぐ



強制移住先の
小屋



砂漠化が進行する南モンゴル



- ・ 中国共産党は砂漠化の進行はモンゴル人の放牧のせいとしているが、実際は資源採掘と工業化による環境汚染。放牧こそ草原を維持する知恵。



草原に出来た街 ウーハイ



踏み潰される草原



抗議するモンゴル人

南モンゴルの独立抵抗運動

- ✧ 1981年のモンゴル人学生による独立運動が起こり、民族意識が高まり、独立への動きが活発になった。1995年にハダ氏が独立を目指す南モンゴル民主連盟を設立した。中共は国家分裂主義者として家族共監禁。(2010年釈放されたが家族と共に行方不明)。これにモンゴル人は海外で活動を積極化させ、1997年にはショブチョード・テムチルトが内モンゴル人民党を米国で設立し、2006年モンゴル自由連盟党が日本で設立。ヨーロッパにも支部を設置するなどして欧米・アムネスティとともに中国政府による人権弾圧への抗議独立運動をチベット・ウイグル独立運動と共にやっている。



南モンゴル民主連盟 ハダ氏
右の写真は拘留中のハダ氏

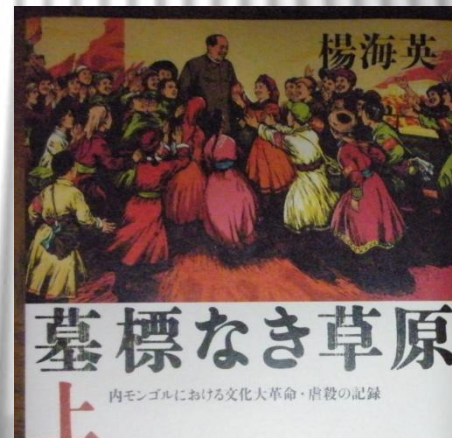


ショブチョード・テムチルト
内モンゴル人民党党首。かつて
独立運動の学生、ドイツに亡命
。



南モンゴル大虐殺に関する書籍

- ✧ 2010年、この南モンゴル虐殺事件を追及した静岡大教授 楊海英の『墓標なき草原 内モンゴルにおける文化大革命・虐殺の記録』が司馬遼太郎賞を受賞する。(岩波書店刊) 著者は日本在住の内モンゴル出身モンゴル人研究者で、モンゴル名をオーノス・チョクト氏。現在日本に帰化。



「満洲国」に組み入れられ、そこで民族解放思想を身につけた、内モンゴルの「前科ある」知識人たちの運命は？

田中克彦

史上初めて詳細な資料に基づいて明らかになった、中国全土を揺るがした「内人党事件」の実態。内モンゴル人の楊海英氏の研究を通して、読者は、その痛みの一端を共有することになるだろう。

加々美光行

中国共産党の侵略は「民族自治」から

- ✕ ▼ ウイグルは中国全土の約 1 / 6 の面積
- ✕ ▼ チベットは中国全土約 1 / 4 の面積
- ✕ ▼ 内モンゴルは中国全土約 1 / 6 の面積



大陸侵略から
海洋侵略へ傾
倒中



中国共産党が次に狙うのは 台湾、南沙、そして尖閣諸島 最終目標は沖縄

。すでに沖縄は左翼と結託し琉球自治共和国成立を画策している。

Dotouch talk 2010

琉球弧の自立・独立を考える

沖縄講座 2

「琉球自治共和国独立宣言」

第1部 講演／松島泰勝

質疑

第2部 対談・松島泰勝×大嶺 隆

今年6月23日「琉球自治共和国独立宣言」を発した松島泰勝さんに、お話を伺います。

2部は、沖縄独立の具体的提言を続ける大嶺隆さんとの対談です。



●講演者プロフィール

松島泰勝さん (まつしま やすかつ)

龍谷大学経済学部教授・NPO法人ゆいまーる琉球の自治代表

大嶺 隆さん (おおみね たかし)

元中韓協会流動研究センター主任研究員・プロジェクト6R代表。

2010/09/20 (月) 18:30~20:30

参加費・1,500円

琉球センター・どっぴち

(山手線新大塚駅東口を左へ1分、居酒屋新大塚さんを左折・南北線新大塚4番出口から右へ、坂を下って4分)

豊島区駒込2-14-7 03-5974-1333

<http://dotouch.cocolog-nifty.com/blog>

dotouch2009@ybb.ne.jp

